

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月6日

【評価実施概要】

事業所番号	3770103012
法人名	有限会社 博永興産
事業所名	グループホーム“オアシス”香西
所在地	香川県高松市檀紙町1452-1 (電話) 087-815-6511

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年1月29日	評価決定日	平成20年3月6日

【情報提供票より】(19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年5月12日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤	11人、非常勤 4人、常勤換算 13.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り 2階建ての2階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000円	その他の経費(月額)	15,000円+実費	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	100円
または1日当たり 円				

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	17名	男性	0名	女性	17名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	5名	要介護4	8名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	78歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	香西内科医院 池尻歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、幹線道路より少し入り込んだところに位置し、バス停からも近く、医療機関や日常の買物ができる所にも歩いていける。また、2階建ての2階部分に別々の玄関があり、和風ユニットと洋風ユニットに分かれ、それぞれの趣きがある。
訪問すると、ひと目でゆったりとした空間、色調を合わせた家具、落ち着いた利用者の穏やかな表情が見られ、利用者の話したい、聞いて欲しい思いを尊重し、寄り添ったケアに取り組んでいる姿勢がうかがえる。
外部評価を通じて、管理者のリードのもと、全員が積極的に目標を設定し、意欲をもって改善に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員間の共通理解、情報の共有化を図るために、申し送り、種々の会議録等に職員の確認印の徹底と管理者のチェックを行っている。 介護計画、委員会設置を含めた運営に職員の責任感が反映されてきている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価作業は、職員全員で検討し、取り組んだことにより、職員の自覚が高まり、ケアを見つめ直し、チームケアの目標を打ち出した。また、職員からの発言が多くなり、成果がみられた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホーム状況や広報紙を配布し、行事の説明や地域からの行事の紹介、参加依頼がある。また、地域行事におけるホームの役割を見つけ、分担して行っている。ホームへの理解が深まり、訪問者がみられるようになってきている。参加希望のある家族も加わり、利用者、家族とのふれあいが見られるようになってきている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時には、家族の話に耳を傾けるよう心がけている。また、家族にメモをしてもらうことで汲み取るようにし、内容は申送りやグループホーム会議等で速やかに検討し、改善に取り組んでいる。また、ホーム独自に家族へのアンケートを行い、要望の把握に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	外出、散歩、地域やホームの行事への参加等で、双方向でのふれあいが始まっている。農産物を手土産として、訪問を受けている。今後、利用者の話し相手のボランティア等、地域で利用者を支える支援を通して、積極的で、より深いつきあいが期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

↑ 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	オープン当初に、職員全員で話し合い、まとめあげた理念である。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、申し送り時に読みあげ、利用者への取り組みの心がけとしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議での情報、地域行事への推進役割として、積極的な参加が始まっている。夕食の買物、外出の際の触れあう機会等から、近隣の人達が農産物を手土産として訪問を受けている。	○	近隣の人や支所、コミュニティセンターとホームとの双方向での触れ合いが始まっている。また、地域行事におけるホームの役割を見つけ、発揮している。今後、利用者の話し相手のボランティア等、地域で利用者を支える支援を通して、積極的で、より深いつきあいが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の自己評価の作成過程とは異なり、今回の自己評価は職員での検討を踏まえて作成された。また、前回の外部評価で話し合った項目について改善を行った。	○	満足、納得のいく改善を目指して、職員、管理者と共に、運営者も混じえて検討に取り組まれるよう今後に期待したい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域とのつきあい、協力関係が形成されつつある。また、会議の記録を職員全員が共有するようになり、意見の交換やケアへの積極性へつながってきている。会議では、ホームの改善内容までには時間がかかるので、まず、自己評価の内容を説明する方法が考えられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には行政より2名が積極的に参加し、情報の交換がされている。情報をもとに、行事に積極的に協力するようになっている。	○	市の窓口との連携への基盤は形成されている。ホームの運営課題について、解決への働きかけを行えば、課題の解決が図られるような連携がとれると思われるので、努めて欲しい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりは、具体的に預かり金の収支、利用者の必要としているものを、毎月担当者が家族への手紙にて届けている。また、利用者の立場を汲み取る姿勢の工夫をしたり、来訪時には、積極的に担当者を中心として状況を伝えると同時に、家族からの話しも聴き、要望を汲み取るよう努力している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に耳を傾けると共に、家族からメモ書きで意見をいただけるようお願いしている。知り得たものは、申し送り、グループホーム会議等で速やかに検討して改善している。また、ホーム独自の家族アンケートでは外出支援要望が多く、家族等の意見を汲み取り、運営に反映させるシステムは整えられている。意見と対応を集約したものの記録化、また、第三者への表せる機会は設けられていないので、今後努めて欲しい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	家族とのつながりを大事にする点から担当制をとっている。退職者が出た場合も異動を極力なくしており、退職者の後任には、非常勤になることが多いが、新規の職員を充てている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場外研修(OFF-JT)は、段階に応じて計画的に参加させている。必ず、伝達研修を行い、研修の結果を共有している。実践者研修の伝達研修をもとに「チームケア目標」を立て、各自のケアを見直し、検討した成果がでてきている。作業過程では積極的な姿勢での意見支援が増え、その後、日常でも積極性が増えてきた。成果を踏まえて、他のユニットでも試みることも検討されており、「チームケア目標」は掲示されている。また、過去に代表者と職員個々との面談の機会があり、面談により、意欲が湧くようになった例もある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職場外研修(OFF-JT)での交流の機会をもてる。また、事業所オープン時の見学の機会を利用している。	○	まず、イベントの開催案内することを試みたい考えがあり、今後、取り組みを実現して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケアマネジャーの記録をもとに、担当者会議にて情報を共有している。ホームから訪問、面接し、その後ホームに来訪してもらい、利用者、職員、建物に馴染める機会をつけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「話したい、聴いて欲しい」という、利用者の切実な要望を充足させるための役割を大事にしている。また、本人の思いを受け入れ、時折は本人の世界のなかでの必要な役割を演じる等して、共有の世界で共に過ごすこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の進んだ利用者からは言葉からの把握は困難であるが、本人の行動、表情から汲み取ったり、家族からの情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3か月ごとの介護計画の作成は、まず、担当者が記録、家族の意向を踏まえて案を作成する。次に、ケア会議にかけ、検討し、ケアマネジャーが確認して、決定する経過である。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族からの情報や毎日のケアにおける変化が生じた場合、直ちに介護計画の見直しの必要性や、また、そこまで至らない場合はケアの内容を現状に即すように検討し、試行も含めて変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	各担当者が、家族よりの要望を聴き取る姿勢がある。買物支援、病院の付き添いの要望を把握している。日常的な買物、外出は、要望やプログラムにも支援を心がけている。	○	利用者個々の状況のなかで、特別な外出支援、病院への付き添いの要望を把握している。具体的な条件の基での実現に向けた取り組みを検討して欲しい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院が熱心で頻繁に訪問があり、十分な連携が図れ、利用者とは良好な関係が形成されている。家族は安心してかかりつけ医として希望しており、適切な助言と医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、職員、医師とで話し合いを行っている。家族の希望は看取りまでを希望しており、家族の意向を尊重して、ホームのできる限界まで対応している。医療面の限界から、最期は医療機関へお願いするようになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	広報誌への写真、名称の掲載についての了解、記録の所定箇所での管理が心がけられている。職員の言葉かけには、利用者を尊重している姿勢がみられる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中は基本的にスケジュールをベースとして進めている。午後は、その日の夕食の買物、希望に沿った楽しみで過ごすようにしている。また、朝の送り時に利用者の気分、天候等を目安にして、その日の過ごし方を提案したり、話し合っって柔軟なものにしている。	○	利用者に常に沿うように心がけているが、職員ペースになっているのでないかと反省が出ている。各利用者のリズムを適確に把握し支援したいとの姿勢があり、今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食はデイサービスと共通の献立で、調理されたものを食している。食事前後と食事中は共にゆっくり支援でき、「おいしいね」と言葉を交わしながら、ゆっくり食事されている。また、買物では好きなものを購入している人もいる。朝食は、パン食希望者には希望に沿って提供している。また、後片づけを共にしている姿もみられる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後に設定されており、時間、順番は希望に沿っている。夜の入浴には要望に沿えていない。体調、排便の失敗などの状況によっては、午前中にも入浴してもらっている。	○	職員のローテーションの関係から夜の入浴支援はできていないが、今後は夜の入浴習慣の利用者の利用も考えて、取り組みを検討して欲しい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯干しや作品作り、食事の後片づけ等、利用者の残存能力を活かしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、近隣への買物、散歩、ドライブへの希望や誘いかけにより出かけるようにしている。また、夕食の買出しには、声をかけて外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	戸締り時以外での施錠はしていない。帰宅願望により玄関から出かけようとする時は玄関から付き添い、落ち着いたときに帰ってくることもある。外へ出ていこうとする気配を見逃さないようにして、外出願望となる状況、原因を把握して支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力による避難訓練、マニュアル作成している。	○	災害に伴う対策、避難には身近な人達の協力が欠かせない。今後、運営推進会議の機会を利用して、近隣、自治会等へ協力を働きかけることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	デイサービスの栄養士が栄養摂取状況を把握している。1日の水分摂取は、各自記録にてチェックしている。不足気味の場合には、利用者の好きな器具を利用して、気持ちよく摂取できるように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気調節可能の高窓、白熱球の照明、テレビに頼らない時間の過ごし方など、音、光が落ち着いている。適当な空間に置いた生け花とそれに合った花器のしつらいは、日本の家屋の座敷にいるような雰囲気である。また、畳、ソファー、ダイニングのコーナーが利用者の好みと落ち着く空間を提供している。花を眺めたい人はベランダに出て、ベンチに座り、プランターの花を眺めるなど、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自好みののれんの入り口、また、各居室は、一目で他の居室とは区別できる配置である。好みの家具、身近に置きたい物が持ち込まれ、家族の訪問の際には、居室でゆっくりと過ごしている様子がうかがえる。利用者一人ひとりが、各自の居室を間違える人がいないことは、各自にとって居心地のよい居場所であることを示している。		